

(熊本県立八代工業高等) 学校 (定時制) 令和5年度 (2023年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「誠実」のもと、八代地域にある県内唯一の総合学科の定時制の高校として、多様な学習ニーズに応え、個に応じたきめ細かな指導により、確かな学力を身につけるとともに、他の人々と協働しながら、地域社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>そのため、総合学科という特色を生かし、進路目標や興味・関心にあわせて選択した科目で学びを深めるなどキャリア教育の充実を図り、社会的・職業的自立に向けて必要な知識や技能を確実に習得する教育実践を目指す。</p> <p style="text-align: center;">令和5年度 (2023年度) 教育スローガン</p> <p style="text-align: center;">考え・気づき・動く!</p> <p style="text-align: center;">自ら考えることが気づきにつながり、行動に一寸ずつの変化が生まれる。その積み重ねが成長へつながる。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 健全な心身の育成 (2) 学力の定着向上と進路実現に向けた取組の充実</p> <p>(3) 信頼される学校づくり (4) ICTの活用、校務整理と業務改善</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	「働きながら学べる学校」の推進	・多様な生徒の実態に即した指導	・きめ細かな生徒の実態把握と個別指導の充実	・毎月の生徒情報交換会 ・生徒面談の重視と特別支援計画の共有、状況に応じた各教育機関との連携による対応	A	・毎月の生徒情報交換会により多様な生徒の実態を全職員で共有した。 ・担任を中心に生徒にきめ細かな指導ができた。全生徒にSC面談を実施。保護者やSSWと連携し個々の課題に対応したことで、入学式から一度も登校しなかった生徒1名以外、中途退学者は出なかった。
	教職員の資質向上	・校内研修の充実	・職員一人ひとりの当事者意識が高まる研修の企画 ・校内研修を推進する体制作り	・学校教育目標を踏まえ職員の必要性の高い研修テーマの設定、実施 ・職員一人ひとりの専門性を活かした研修の企画	A	・GIGAスクール推進部や生徒指導部、保健部等、各部で当事者意識の高まる研修を企画、実施することができた。 ・運営委員を中心にある程度は校内の職員研修を推進する体制作りはできた。
	業務改善	・校務の精選と効率化	・各分掌業務の精選 ・校務のデジタル化	・分掌毎に教育効果の低い校務の見直し ・GIGAスクール推進部による校務のデジタル化の推進	B	・連絡会や登校指導の実施回数を削減できたが、まだ校務の見直しを進める必要がある。 ・連絡会やアンケート実施等でデジタル化が進んだ。
学力向上	学校生活への意欲向上	・出席率の向上	・生徒の年間出席率平均85%以上	・毎月の情報交換会で生徒の学校生活や家庭環境の状況を全職員で共有 ・Classroomを活用し生徒へ授業計画や行事予定表を掲示し、見通しを持たせる。	A	・情報交換会で生徒の状況を把握し担任を中心に欠席の多い生徒への対応を行った。 ・学校連絡Classroomを活用し授業予定や定期考査時間割を生徒及び保護者にも掲示できた。 ・全体の出席率は、87.8%であった。

学力向上	学習への意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかる授業の実践 ・ 授業時数の確保 ・ 基礎学力の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒による授業評価や全職員によるICTを活用した研究授業の実施 ・ 行事予定をもとに授業を偏りなく調整。授業の予定時数を全職員へ周知 ・ 新入生考査やベーシックタイムテストの結果を分析し職員全体で共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価は1・2学期に1回ずつ行い、Formsでの配付・回収によって業務短縮できた。研究授業は職員用Classroomを活用し、配付資料の共有やアドバイスボードでの共有、個別の授業改善の提案により指導が充実した。 ・ 授業数の偏りがないように調整し授業予定数は各学期に全職員へ周知した。 ・ 正答誤答を細かく分析した結果を全職員で共通理解する機会を設けることで、生徒の苦手分野が把握でき学習指導や支援に活かした。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の把握 ・ ベーシックタイムの実施 ・ 読書週間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生考査の結果を分析し職員全体で共有 ・ 国語、数学、英語の課題を3か月間取り組み、課題をもとにしたテストを実施 ・ 新たに読書週間を設定 		B
キャリア教育・進路指導	進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人ひとりに合わせた進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路希望の把握 ・ 生徒個々に応じて、面談や課外、模試の実施 ・ ハローワークや地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の進路希望調査の実施及び職員間での共有 ・ 学期1回の進路検討会の実施及び面談、課外、模試等の実施 ・ ハローワークや地域事業所等、外部機関との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月実施したが次年度は隔月実施としたい。職員間での共有はできた。 ・ 各生徒の実態を担任と共有できた。進研模試を継続的に実施ができています。 ・ 外部機関との連携を図り、生徒への適切な指導へとつなげた。就職関連行事への教員、生徒の参加も増えた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 働くことに前向きな勤労観の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就業状況調査の実施 ・ 求人情報の積極的発信 ・ キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の就業状況調査の実施と職員全体での共有 ・ 求人情報コーナーの設置と生徒への周知徹底 ・ 企業見学、進路講演、インターンシップ、卒業生との座談会等の実施 		B

生徒指導	自主自立の精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻の減少(昨年度比1割減) ・7割の生徒がスマホのマナーを意識した行動を送ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教務部、生徒会、家庭との連携 ・学校、家庭でのスマホ利用ルールの設定、情報安全教室の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数は789件で、昨年度より288件増加した。 ・スマホ利用のルールはスマホ使用宣言を活用し、ルールを意識した生活が送れている。校内での使用マナーに課題がある。情報安全教室を実施し、SNS活用について理解が進んだ。
	豊かな人間力形成	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験作文の取り組みを通じた自己理解の推進 ・SSTや地域交流活動を通じたコミュニケーション能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験作文及び発表活動の充実 ・地域交流活動、伝統芸能体験学習の実施 ・年2回のSSTの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員に生活体験作文を作成させ、自身の姿を振り返り自己理解につなげることができた。 ・SSTや伝統芸能体験授業等でクラスメートや地域の方々と交流する場面を多く設定することができたが、生徒のコミュニケーション力には、まだ課題がある。
人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の実践力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に対する研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の実体験に基づいた人権レポート作成等、計画的な職員研修の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への積極的参加については前回の43%から67%に増えている。全職員による人権レポート作成や研究集会への参加等が意識向上に繋がっている。
	人権意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の内容精選 	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年間を見通した人権教育計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・部落問題や北朝鮮拉致問題への取組など、3・4年間の継続した人権問題への取組の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のいじめや差別を許さない意識は100%(前回95%)に達し、学年・学期ごとに様々な人権問題に取り組んだ成果が表れている。
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命を大切にすることを育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりの推進 ・自己肯定感や自尊感情の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さを学ぶ講話や自己肯定感 ・自尊感情を高めるLHR・授業による実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・友人を大切にしている生徒の割合が前回とほぼ横ばいであるが大切にしていないと答えた5%の生徒の意識をどう向上させるかが課題である。
いじめの防止等	いじめの防止等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについての認識と理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の人格を尊重する態度の育成 ・心の通う人間関係を構築する態度の育成 ・いじめゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して生活できる集団生活ルールの確立 ・情報安全教育、人権教育の実施 ・心のきずなを深める月間の生徒会スローガン設定や標語作成の取組等、あらゆる機会をとらえていじめについて考える場面の設定 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスマッチ等の学校行事を通して、生徒が集団の一員としてルールを守って活動させることができた。 ・情報安全教室や人権教育を計画的に実施し、生活全般でのマナーや命の大切さについて学ぶ場になった。 ・生徒会のスローガン発表や生徒の標語作成等の活動を通じて、いじめについて考える場面を設定した。毎学期実施している生徒へのアンケートでは、今年度いじめの認知件数は0件であった。
	いじめの実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見、解決に向けた取組 ・いじめの認知 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見と対応 ・いじめに対する学校と家庭の連携・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期のアンケート実施と検証、面談週間の設定 ・情報集約担当者による職員研修 ・PTA総会等での相談窓口の周知 ・スクールサインのインストール 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期のアンケートの結果をまとめて検証まで計画的に行った。 ・6月に職員研修を実施し、職員がいじめの定義を理解する機会になった ・PTA総会で相談窓口を説明し周知を徹底した。 ・スクールサインは周知の方法が不十分であり、見直す必要がある。

地域連携 (コミュニティスクール等)	学校・保護者・地域・各種行政機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型コミュニティスクールとしての地域との連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営方針、スクールミッションの承認 ・生徒主体の地域交流活動、地域貢献活動の実施 ・防災教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の開催(年3回)による連携体制確立 ・探究活動を通じた地域交流活動及び地域貢献活動の実施 ・安心安全メールやGoogle Classroomを使った連絡体制の強化及び適時の防災教育・防災講話の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員と本校の教育活動の共通理解が得られ、貴重な意見や示唆を享受できた。 ・郷土の石工の紙芝居制作し保育園で子ども達に披露した。フードロスの食材を活用し、こども食堂で調理し提供できた。 ・消防火訓練に加え、4月に「地域洪水に関する講話」や6月に「緑の流域治水」の動画視聴及び講話を実施した。
	開かれた学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制高校の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業・オープンキャンパスによる魅力アピール ・学校ホームページによる定時制の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の校外への周知 ・オープンキャンパスの内容充実 ・定時制独自のホームページにより見やすく鮮度のある情報発信とブログ更新 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒・保護者や本校の保護者に大変好評であった。 ・オープンキャンパスについては中学生のアンケート結果が良好であった。 ・定時制独自のホームページで、学校の教育活動や生徒の活躍等をタイムリーに公開できた。
健康教育	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を送るために必要な力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康意識と自己管理能力の向上 ・基本的な生活習慣定着のための保健委員会による主体的な活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理表を活用した睡眠・食事状況の把握と生徒への指導・助言 ・食育・調理会及びウォーキングイベントの実施 ・保健委員による身の回りの整理整頓や基本的な生活習慣の啓発及び呼びかけ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の睡眠や食事の状況が分かって、適切な指導や助言ができた。 ・食育・調理会及びウォーキングイベントを実施し、食事や運動の重要性を学ぶことができた。 ・保健委員の活動により、教室の二酸化炭素の測定や、整理整頓、また食品ロスの川柳などをコンテストに応募することができた。
学校行事等の充実	学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の満足度を5段階中4以上 ・生徒の自己肯定感や自律心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭、校外体験学習、地域交流活動等の行事を通じた自己肯定感の育成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が主体となって様々な学校行事を実施することができた。満足度も4以上を達成することができ、生徒の自律心と自己肯定感向上に繋がった。
	生徒会行事と部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAと連携した行事の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会の充実 ・PTA活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会の出席率の向上と綿密な打ち合わせの実施 ・豚汁会やウォーキングイベントでの生徒支援 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会は役員出席率が高くPTA活動に大いに尽力をいただいた。 ・PTAと連携し、体育祭当日に豚汁会を実施することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実(定通文化大会を含む) ・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の課題を自ら考え、行動する意欲的な態度の育成 ・生徒会活動の活性化による学校行事の充実 ・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止、スマホ使用マナー改善等への取組みの推進 ・生徒一人ひとりが活躍できる学校行事の企画 ・活動しやすい環境の整備(用具等) ・通年の活動ができる指導・助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのスマホ使用マナー改善に十分取り組むことができなかった。 ・生徒会活動をとらして生徒の課題解決力や積極性が向上した。 ・部活動環境の整備は進んだ。昨年より部活動参加者は増えたが、部によっては参加者が少なく通年の活動を行うことができなかった。 	

4 学校関係者評価

(1) 様々な課題を抱えた生徒に対して、きめ細かに丁寧に対応することができている。家庭訪問、職場訪問、保護者との面談を頻繁に実施し、学校と保護者との信頼関係が構築されている。SC、SSWとの連携もとれている。中途退学者が少ないのもその成果ではないか。

(2) 生徒会が主体となって様々な学校行事を実施し、自律心や自己肯定感の向上につながっている。一方で2学期末に学校行事が集中し、職員の負担増になっているので、行事の精選も必要である。

(3) 学校HPや定時制通信「誠実」等で定時制の魅力を発信することができている。一方でHPや定時制通信の担当者への負担感が大きいとも感じる。

(4) 生徒の読書習慣作りのために読書週間を設定されたのは良かった。読書週間のさらなる定着のための取組に期待したい。

(5) 国数英の基礎学力の定着を図るベーシックタイムの取組みはあまり効果が上がっていないのではないかと。5分間ではすべての問題を解答できないし、見直しの時間も取れない。

(6) 計画的にキャリア教育は実施されている。今後は、生徒が自らの進路実現のために主体的に動ける態度を育成していくべきである。また、職場体験の充実も図っていくべきではないか。

(7) 遅刻者数の増加、校内でのスマホ使用マナーの悪化が気になる。先生方の指導とあわせ、生徒会が主となった自主的な改善のための取組に期待したい。

(8) 3、4年間の継続した人権教育の成果が生徒のいじめや差別を許さない意識の高さに表れている。

(9) 健康管理表の活用や食育・調理会、ウォーキングイベント等の取組で生徒の健康に対する意識が向上している点は評価できる。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標

授業では少人数クラスの強みを活かし個別指導に重点をおいた。習熟度別に個別のプリントを配布し、学力の引き上げに努めた。国語、数学、英語の授業では学び直しの時間を確保し、定期考査においてその定着度を確認し、各教科とも若干の伸びが見られた。また、伝統芸能体験授業や探究活動での地域の方々との交流をとおして、人々と協働し、地域社会に貢献できる生徒の育成にも成果があった。以上の理由で本年度の学校教育目標は概ね達成できたと考えている。

2 本年度の重点目標

(1) 健全な心身の育成

ここ数年、基本的な生活習慣の育成は本校の大きな課題であった。本年度はその課題改善に向け、健康管理表で生徒の睡眠・食事状況を把握し、その分析結果を生徒への指導に活かした。また、食育や調理会、ウォーキングイベントを実施するなど、健康教育に力を入れた。生徒向けのアンケートでは“生活習慣に気を付けている。”と回答した生徒が前年度の38%から56%に増えた。

(2) 学力の定着向上と進路実現に向けた取組の充実

少人数クラスのメリットを活かした個別指導、資格取得のための指導、大学進学希望者への進学指導や模試の実施、自学室の整備等で学力の定着向上を図った。ベーシックタイムの取組はSHRの5分間では効果が薄いという意見があり、改善の必要がある。企業見学会やインターンシップ、進路講演会等、進路実現に向けた取組を計画的に実施することができた。障害を有する生徒に対しては、ハローワーク、熊本県障がい者職業センター、若者サポートセンターと連携し、職業訓練を経て、就労につなげている。

(3) 信頼される学校づくり

生徒一人ひとりを学習面、進路面、生活面できめ細かくサポートするとともに、日常の教育活動や様々な学校行事、地域貢献活動等を学校HPや学校通信で積極的に発信することで、生徒、保護者、地域に信頼される学校づくりに努めた。保護者向けアンケートの“八代工業定時制は保護者及び地域から信頼される学校として評価されている。”という質問項目では95%の保護者が“あてはまる。”と回答した。

(4) ICTの活用、校務整理と業務改善

定時制独自のGoogleスライドを活用した情報共有ページを作成し、いつでもどこでも、カレンダーや連絡会レジュメ、各分掌の資料を閲覧できるよう業務改善に取り組んだ。また、それを活用するための職員研修を定期的実施し、円滑な業務遂行に役立てた。連絡会や登校指導の回数削減も実施した。

3 自己評価総括表

評価の観点22項目のうち5項目で評価が上がり、5項目で評価が下がった。

(1) 「働くことに前向きな勤労観の育成」A→B：年間計画に沿って企業見学やインターンシップ等を実施できたが、事後指導の在り方を改善し、進路意識のさらなる向上につなげていきたい。また、働くことに前向きな勤労観を育成していくために職場体験の充実にも取り組んでいく。

(2) 「総合型コミュニティスクールとして地域との連携体制の構築」B→A：伝統芸能体験学習や探究活動をとおして地域との連携体制作りが進んだ。

(3) 「健康な生活を送るために必要な力の育成」B→A：生活習慣の改善のために保健部と担任が連携し生徒への指導、保護者への助言に取り組んだ。食育・調理会やウォーキングイベントを開催し、健康意識が高まった。

(4) 「生徒会活動の充実」A→B：学校行事の運営に積極的に取組むことができた。今後は学校の課題解決のために自ら積極的に行動できる生徒育成に取り組むたい。

(5) 「基礎学力の定着」B→B：基礎学力定着のために“5分間のベーシックタイム”の取組を実施しているが、効果が薄く改善の余地がある。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 2学期に学校行事が集中し職員の負担増になっているという意見が多かった。運営委員会等で議論を重ね、隔年開催や時期の見直し等を検討している。
- (2) 学校HPや定時制通信「誠実」の担当者の負担が大きいため、複数の職員が担当できるよう職員に向けた研修を実施していく。
- (3) 就労生徒が減少し、社会に出て働くことに対して前向きになれない生徒が増えている。工業系列、商業系列で学んだことを活かし、勤労観を育成できるよう事業所での職場体験を充実させていく。
- (4) 生徒指導上の課題として、遅刻数の多さと校内でのスマホ使用マナーの悪化がある。課題については生徒会とも共有し、生徒会による啓発運動と保護者への協力依頼でこれらの課題改善に取り組む。また、校内でのスマホ使用のルールについては校則に新たな規定を盛り込んだ。
- (5) ここ数年ベーシックタイムの取組みで基礎学力の定着を図ってきたが、5分間という短い時間では効果が薄い。授業の中に学び直しの時間を設け、解答、見直しの時間を十分確保し、個別指導でサポートすることで基礎学力の定着を図っていく。